

-----  
【テキスト中に現れる記号について】

《》：ルビ

（例）男女《みな》ノ川《がわ》に

|：ルビの付く文字列の始まりを特定する記号

（例）横綱|男女《みな》ノ川《がわ》  
-----

二、三年前の、都新聞の正月版に、私は横綱|男女《みな》ノ川《がわ》に就《つ》いて書いたが、ことしは横綱双葉山に就いて少し書きましょう。

私は、角力《すもう》に就いては何も知らぬのであるが、それでも、横綱というものには無関心でない。或る正直な人から聞いた話であるが、双葉山という男は、必要の無いことに対しては返辞をしないそうである。お元気ですか。お寒いですね。おいそがしいでしょう。すべて必要の無い言葉である。双葉山は返辞をしないそうである。

何とか返辞をしる、といきり立ち腕力に訴えようとしても、相手は、双葉山である。どうも、いけない。

或るおでんやの床の間に「忍」という一字を大きく書いた掛軸があった。あまり上手でない字であった。いずれ、へんな名士の書であろうと思い、私は軽蔑して、ふと署名のところを見ると、双葉山である。

私は酒杯を手にして長大息を發した。この一字に依《よ》って、双葉山の十年来の私生活さえわかるような気がしたのである。横綱の忍の教えは、可憐である。

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成元）年6月27日第1刷発行

1998（平成10）年6月15日第4刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房

1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6月

初出：「東京新聞」

1944（昭和19）年1月13日発行

入力：増山一光

校正：土屋隆

2006年1月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。